

一宮市三岸節子記念美術館

三岸節子〈短歌ポスト〉入選作品（令和四年後期分）

選者 小塩卓哉（中部日本歌人会顧問）

【優秀作】

馬・月夜の縞馬

馬の縞ほどけて思う秋の頃明日私は何になれるか

豊田市 寺尾伸江

〈評〉

絵画のもつ主題が、読者にインスピレーションを与えた歌。この絵が描かれた時期の節子の心理状態についての専門家の分析もあるのだろうが、そのようなことはおいて、作者は、縞馬の縞がほどけている様子を見て、「明日私は何になれるか」という、唐突な思いに駆られたのである。芸術の秋、ということもあるかも知れないが、このような内的変化を求めて、我々は美術館に足を運ぶのだろう。

ブルゴーニュのブドー畑

カンバスは荒々しくも豊潤な赤葡萄酒のごとき山並

犬山市 有本 仁政

〈評〉

節子が得意とするフランス風景を代表するこの絵の特徴を、作者は「荒々しくも豊潤な」と形容する。二律背反であるのがかえって、その筆致の真実をとらえているように思わせる。荒々しいが確かに豊潤な赤だと、その絵の前に立つものは頷くことだろう。さらに、その形容が赤葡萄酒に準えてあることは、節子のフランス愛に寄り添っており、これまた納得がいく。

三岸節子のパレット

パレットの乾いた絵の具物語る節子の筆はもはや踊らず

愛知郡東郷町 古川 匡子

〈評〉

土蔵展示室に再現された節子のアトリエを詠んだ作品。主がもういないアトリエは、パレットの上の絵具が乾燥しており、虚しくもある。「節子の筆はもはや踊らず」と詠われているが、反対に、今にも節子が現れ、筆を見事に操る姿が目に見えるように浮かぶようだ。不思議な感覚だが、土蔵に入った時に、誰もがそこにいるような思いをするのではないか。否定表現によって、そんな感覚を見事に描き出した作。



三岸節子使用のパレット



三岸節子
《ブルゴーニュのブドー畑》
1979年 ©MIGISHI



三岸節子
《月夜の縞馬》
1936年 ©MIGISHI

【佳作】

馬・月夜の縞馬

玻璃馬の月光に似たもろさにもたてがみのごとき気高さがある

稲沢市 村上 亜祐美

とうもろこしと魚

まなつびのひかりかがやくみどりいろいのちかんじるとうきびのはよ

海津市 西村 美紀

月夜の縞馬

縞馬は月を仰ぎて懐かしむ遠き祖国は如何にかあらむ

北名古屋市 濱田 静江

自画像

自画像に訪れるたび見いられん背中^{せびろ}おされて帰る白秋

春日井市 田中 満知子

ブルゴーニュのブドー畑

《ブルゴーニュのブドー畑》の豊穰に生きよ生きよと背を押されたり

東京都狛江市 大田 美和

花・果実

無造作は再現できぬ至上なりそれとも単に偶然なりや

一宮市 渡辺 なごみ

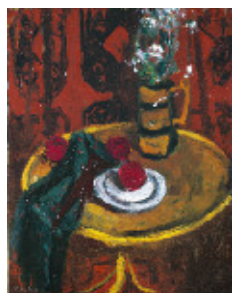
群がる馬

想像をはるかにこえてえがく人たくさんの絵がすごさを見せる

江南市門弟山小学校六年 勝田 奏渡



三岸節子《群がる馬》
1938年 ©MIGISHI



三岸節子《花・果実》
1932年 ©MIGISHI



三岸節子
《ブルゴーニュのブドー畑》
1979年 ©MIGISHI



三岸節子《自画像》
1925年 ©MIGISHI



三岸節子
《月夜の縞馬》
1936年 ©MIGISHI



三岸節子
《とうもろこしと魚》
1963年 ©MIGISHI



三岸節子
《月夜の縞馬》
1936年 ©MIGISHI